

プログラム説明書

団体名	さぬきアドベンチャークラブ		
プログラム名	いのちのつながりと暮らしのヒント		
概要	①「循環型の暮らしがつくる日本の自然」、②「地球温暖化と生活防災」、③「持続可能な社会づくりとは?」、④「省エネ・節電のススメ」の4部作。日本の自然観がわかる。地球温暖化の仕組みや現状を知り、省エネなどライフスタイルの変革につながる。世界の現状や問題などをグローバルに学ぶことができる。自ら考えて行動できる人を育てるきっかけづくりに最適。実績多数。まさしくSDGs。		
ねらい	世界の現状や問題などをグローバルに学び、再考することができる。		
対象者	小学校中学年以上 (特別支援学校を含む)	人数	30名。
実施場所	教室、多目的室、体育館	実施時間	各45～50分
学校の準備物	モニター、ホワイトボード 配布資料	実施団体の準備物	PC、小道具や教材1式
安全上の注意事項	なし		
雨天時の対応	なし		
アピールポイント	<p>①日本の自然とは、どういうものかがわかる。日本の環境を考える上で、礎となる。KP法やPC、イラストなどでビジュアルに伝えることができる。環境カウンセラーがわかりやすくお伝えします。総合学習での実績多数。</p> <p>②地球温暖化の現状やしくみを知ることができる。生活スタイルの改善を促し、温暖化や災害に備えることができる。映像や動画などでビジュアルに伝えることができる。これからの暮らしのヒント、生活スタイルの再考につながる。総合学習での実績多数。元 IPCC report communicator、香川県地球温暖化防止活動推進員がわかりやすくお伝えします。</p> <p>③ESD がわかる。SDGs につながる。世界の現状や社会問題を知ることができる。PC や KP 法、イラストなどでビジュアルに伝えることができる。環境カウンセラーがわかりやすくお伝えします。総合学習での実績多数。</p> <p>④エネルギー自給率の低い日本。家庭のエネルギー消費の半分は、電気であることを知り、省エネとは、節電とは何か学ぶ。その対策として賢い家電の使い方や家屋の断熱、遮熱が必要。暮らしの中で誰もがチャレンジ可能なエネルギー対策をわかりやすくお伝えする。かがわ省エネ発電所に活かせるヒント満載。省エネ普及指導員がわかりやすくお伝えします。中四国での実績多数。</p> <p style="text-align: right;">※上記、3つまで選択可能です。</p>		

①「循環型の暮らしがつくる日本の自然」プログラムの進め方

【導入】

地球にすむ生きものは、さまざまな環境でお互いがつながりあって生きていることなど生物の多様性、命の恩恵について説明する。私たちの生活スタイルの変化が地球環境を壊し続けていることで、その多様性が失われている。世界や日本の自然の変化は、便利というものと引き換えにした代償であることを伝える。かつての自然、日本の自然とは、今と何が違うのかについて考える。

【展開】

里山の写真を掲示し、かつての循環型の暮らし方を説明する。自然を収奪するというより、利用させてもらいながら生きる生活が文化となった場所。里、野良、山。自然の恵みを余さず使い、資源を無駄遣いしないゼロエミッション社会を香川の自然の利用形態の知恵（さぬき三白、借耕牛、線香水）などを交えて伝える。日本の自然とは、人がかかわることによって維持されてきた自然、野良仕事によってつくられた自然であることを理解させる。それが戦後のエネルギー革命、化石燃料の普及などにより激変。日本人の自然とのつきあい方、農林業のかかわり方が変わってしまったことを今の生活スタイルと共に伝える。生物の多様性が失われた。

【まとめ】

現在、日本の絶滅危惧種の50%が里山の環境に依存していること、山の緑は水を確保し川から海へと流れて土を育てる。この水と緑と土という自然環境のつながりとその循環システムを断ち切ってはいけない。私たちは、それらから恩恵を受けていることを再認識させ、どうすれば日本の自然が豊かになるのかをみんなで考える。

②「地球温暖化と生活防災」プログラムの進め方

【導入】

パワーポイントの授業。はじめに IPCC（気候変動政府間パネル）などの資料を基に制作していることを伝える。地球温暖化クイズからスタートし、世界の気候変動から日本や香川の今を伝える。

【展開】

温暖化の仕組みや CO₂ の循環を映像でわかりやすく見せる。現在の世界や日本の CO₂ 濃度から現状以上の対策をとらなかった場合、2100 年までの世界の気温の変化をシミュレーション画像で紹介する。次に温暖化によってどんな影響が出るのかを 4 分程度の映像で紹介し、IPCC 第 5 次報告書から 8 つのリスクが高まることを伝える。その影響は、近年、香川でも表れていることを台風や渇水状況からひも解く。ここで、私たち人類が何を行ってきたのか、その現状をグローバルで紹介。温暖化の要因は、私たち人間の活動であることを知る。

IPCC の科学者のメッセージ画像を流し、これからの行動次第で抑制できることを学ぶ。

ここで、みんなで考える問題を 3 つほど提示する。エコバック、乾パン、ブロッコリー他、地産地消など化石燃料に頼らない暮らしは、温暖化を防止し災害にも強いことを知る。

【まとめ】

CO₂ を出さないこと、温暖化に備えることがこれからの私たちにできること。暮らしや防災の工夫、ヒントを掲示する。南海地震の確率などから 3 分 3 時間 3 日間ルールの説明。温暖化と防災は、コインの表裏である。防災マップやハザードマップで避難場所へのルート、日ごろの備えなどを確認。逃げる、備えることの大切さを過去の震災から学ぶ。

③「持続可能な社会づくりとは？」 プログラムの進め方

【導入】

資料 A4 を配布するため、あらかじめ印刷していただく。(A4-2 枚両面印刷)

持続可能な社会づくりとは何かを説明する。ESD とは、私たち一人一人が社会の問題と身近な暮らしを結びつけ、これからも地球と共に生きていくという未来に生きる力を育む教育活動のこと。エッ・それ・どんなこと？をエッ・それなら。できるにかえる教育、価値観の改変であること、目的や能力を伝える。

【展開】

今、1秒間に世界で起きていることを伝え、知っているけどやっていないことを認識させる。人間のエゴが便利というものと引き換えに引き起こした環境破壊から地球サミットの行動計画へ誘い、日本が環境への気づきを得るためのムーブメントを起こしたことを知る。

四コマ漫画で世界の現状を伝える。世界の仕組み、自然界と人間界の違いを知る。ここで問題「16個のピーナッツ」を提示し、考えさせる。ピーナッツを永久に食べ続けるには、どう分ければいいのか。ピーナッツが資源だったら、格差や枯渇しないように状況にあった配分やルール作りが必要であること、資源は有限であることを学ぶ。

【まとめ】

持続可能な社会づくりのポスターを使って脱炭素社会、循環型社会、自然共生社会が手をつなぎ、同時進行しなければならないこと。地球は1つ。過去と未来はつながっていること考え、行動することを促して終わる。※内容をSDGsに変えることも可能。その場合は、パワーポイントを活用する。

④「省エネ・節電のススメ」 プログラムの進め方

【導入】

パワーポイントを使用。まず、私たちが消費する1次・2次エネルギーを考える。1次エネルギー消費がCO₂を発生させ地球温暖化を引き起こしている。その原因は、私たち人間の活動である。各地で何が起きているのか現状を把握する。その対策は、省エネであることを知る。

【展開】

エネルギーは、どこで使われているのか？家庭のどこで使われているのか？現状を知る。今だに化石燃料に依存する日本。省エネと節電の違いを知り、賢い家電の選び方や使い方を学ぶ。加えて、省エネ・節電の効果を上げるための家屋のつくり(断熱・遮熱)なども学ぶ。

【まとめ】

節水やエコドライブ、3Rなど暮らしを見直す工夫を伝えて、ムダなく、ムラなく、ムリのない生活習慣を身に着けることを促して終わる。私たちができる温暖化対策として効果的である。